

Viewing and Creating Multilingual Web Pages

マルチリンガル WEBガイド



マルチリンガルWebページの見方と作り方

O'REILLY™
オライリー・ジャパン

三上吉彦
関根謙司 共著
小原信利

マルチリンガル WEBガイド

マルチリンガルWebページの見方と作り方



江苏工业学院图书馆
藏书章

三上吉彦、関根謙司、小原信利 共著

O'REILLY™

マルチリンガルWEBガイド

マルチリンガルWebページの見方と作り方

1997年8月25日 初版第1刷発行

著 者	三上吉彦、関根謙司、小原信利
発行・編集人	河村 由美子
編集・制作	有限会社イー・クラフト
本文装幀	清水宣博、小澤いずみ
DTP / 印刷	日興美術株式会社
発 行 所	株式会社 オライリー・ジャパン 〒160 東京都新宿区三栄町12番地 清重ビル2F TEL (03)3356-5227 FAX (03)3356-5261 電子メール japan@ora.com
発 売 元	株式会社 オーム社 〒101 東京都千代田区神田錦町3-1 TEL (03)3233-0641(代表) FAX (03)3293-6224

Printed in Japan (ISBN4-900900-23-0)

落丁、乱丁の際はお取り替えいたします。

本書は著作権上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、株式会社オライリー・ジャパンから文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。

はじめに

言葉には言葉のパワーがあります。私たちが日々感じたり思考することに形を与えてゆく力を、言葉はもっています。言葉を母語という言語の中で捉えると、その言語を使っている人たちはニュアンス、リズム、音や色、さらに文字にした場合のイメージなどを共有しています。そこには、単なるコミュニケーションの道具以上の文化が集約され、表現されているといってもよいでしょう。本当に悲しいときや嬉しいときに、思わず口から出てくる言葉は、自分の生まれ育った国の言葉でしょう。だからこそ、言葉によって人の心を動かす表現が可能になるのです。それぞれの言語には有機的な力があり、1つの生命体を形作っています。それらはひとつひとつが別の個性をもつ際立った存在です。

例えば、サザンオールスターズの「愛の言霊 —Spiritual Message—」の歌詞を 100% 完全にはかの言語に翻訳できるでしょうか。歌詞の中の「ヤーレンソーラン」は「ヤーレンソーラン」だから出せるリズム、色、ノリがあり、その意外な使われ方が効果的でおもしろいのです。日本語で表現されているからこそ、この歌は日本人々の共感呼び、ヒットチャートを上り詰めたのでしょう。

現実には世界には多くの言語が存在します。インターネットというグローバルな通信環境の中で、実際よく紹介される WWW (World Wide Web) のページは英語のものが中心ですが、現実にはさまざまな言語のページが存在し、さまざまな情報が提供されています。さまざまな文化が共存し交流してこそ、真の人類のツールとしてのインターネットの姿なのではないでしょうか。飛行機に乗らなくても、入国審査を受けなくても、瞬時にしてある国の今日の新聞を現地の言葉で読める環境こそが、インターネットなのです。インターネットは、時間、空間を越えて、あなたのシステムを生きた異文化の中に瞬時に飛び込める「どこでもドア」にすることを可能とするのです。

また情報を発信するという立場からすれば、私たち日本人だけが使う日本語という言語は、インターネットの中ではマイナーな存在です。しかし、インターネットのグローバルな環境で効果的に情報を提供するには、いろいろな人々に理解してもらいたいと思うはずですし、日本をより深く理解したいと思っている人々も世界中にたくさんいるでしょう。本当に世界に向かって情報を発信したいのであれば、マルチリンガルな情報の発信が必須になります。

ところで、マルチリンガルというと、数か国語に対応するだけで「マルチリンガル」と考える場合もありますが、本書で私たちの扱う「マルチリンガル」は、さらに多くの言語をカバーします。より多くの言語で正確に表現されたコンテンツは、さまざまな人々の心によりダイレクト

に届くはずです。

私たちが本書を作ろうと思ったのは、インターネットを有機的な言語という側面から捉えたかったからです。新しい表現手段であるWebページに自分のシステムからアクセスする方法を解説すると同時に、言葉という壁を越えてより広い世界に向かって情報を提供するための方法を提案するのが本書の目的です。言語というアプローチでインターネットを捉えたとき、インターネットの新しい魅力と可能性に気付かれることでしょう。

しかし、コンピュータという無機的なメカニズムを使用して、言語という有機的な表現方法を扱うには、知っておくべきさまざまな制約や決まりごと、また必要なシステム環境があります。本書は、マルチリンガル環境の仕組みをわかりやすく解説し、それを実現するためのノウハウをステップを踏んで説明していきます。

本書の構成

本書は、次の3部の構成になっています。

- 1部 マルチリンガルWebの世界
- 2部 マルチリンガルWebの仕組み
- 3部 マルチリンガルWebページの作成

1部では、各国語別にどのようなWebページがあってどのような仕組みになっているかを、各国語で発行されている新聞などを縦覧しながら見ていきます。2部では、コンピュータとWebサーバでマルチリンガル処理がどのような構造で行われているかを理解します。あわせて、主なブラウザとマルチリンガル用ブラウザについて簡単に理解していきます。最後に3部では、以上の2部をふまえ、またマルチリンガルWebページ作りはどのようにしたらよいかを理解したうえで、具体的にマルチリンガルWebページを作り、実際にインターネットをとおして世界に公開します。

本書の対象読者

本書は、言語とインターネットに興味をもつすべての人を対象としています。本書を理解するうえで特にコンピュータの専門知識は必要としません。しかし、本書をきっかけに、コンピュータをとおして言語と触れ合いたいと考えるならば、「2部 マルチリンガルWebの仕組み」の内容をしっかりと理解することをお勧めします。

注意点

本書で取り上げる言語の順序は、特に何らかの基準に従ったものではありません。本書で使用する言語名、民族名、国名も、なるべく一般的と考えられる名称を使用していますが、特に限定するものではありません。

また、本書で紹介したURL、ソフト名、ソフトのバージョンなどの情報は、できる限り最新のことを記載するように努力しましたが、インターネットの世界は急速に変化しているため、本書発行以降に変更になるものもあるはずです。適宜、更新情報を確認してください。

謝辞

本書の各部は、三上吉彦、関根謙司、小原信利の3人の著者が中心になりまとめました。

企画、執筆に当たっては多くの方々のご協力を得ました。特に1部の「マルチリンガル Web の世界」および3部の「マルチリンガル Web ページの作成」の一部では、山崎吉郎氏(フランス語)、安光伸江氏(ドイツ語)、出口厚実氏(スペイン語)、永田銀子氏(ポルトガル語)、何徳倫氏(中国語)、岡本昌己氏(韓国語)に、多大なご協力をいただきました。急な執筆依頼でしたが、ご協力を心から感謝します。

本書の企画、編集については河村由美子氏(オライリー・ジャパン)に大変お世話になりました。1年以上にわたる編集会議で、数々の幅広い、現実的な提案をいただきました。

また、編集、印刷については、室町幸喜氏(イー・クラフト)、小島正彌氏、鈴木朋巳氏、原川崇氏(日興美術)にご協力いただきました。ありがとうございました。

現在多くの方々が目し、参加し始めたインターネットが日本語あるいは英語のみでの発信にとどまらず、マルチリンガルでの発信、多様な文化をベースにした地球規模の相互情報交換に役立つことを切望します。

1997年7月

三上吉彦、関根謙司、小原信利

目次

はじめに	iii
1 部 マルチリンガル Web の世界	1
1 章 欧米の Web ページ	3
1.1 英語の世界	3
1.1.1 イギリス — 3 1.1.2 アメリカとカナダ — 5	
1.1.3 オーストラリアおよびアジア — 7	
コラム1 Web ブラウザで英日翻訳 — 8	
1.2 フランス語の世界	7
1.2.1 フランス語の表示 — 12 1.2.2 検索システム — 12	
1.2.3 フランス語の Web ページの探検 — 13 1.2.4 フランス語の新聞と雑誌 — 14	
1.2.5 音声と映像が楽しめるフランス語 Web ページ — 15	
1.2.6 アフリカ、南太平洋の Web ページ — 16	
1.2.7 フランス政府関連の Web ページ — 17 1.2.8 ワイン関連の Web ページ — 18	
1.2.9 日本のフランス語サイト — 19	
1.3 ドイツ語の世界	19
1.3.1 ドイツ語の表示 — 20 1.3.2 検索システム — 21	
1.3.3 ドイツ語の新聞と雑誌 — 22 1.3.4 ドイツ語のニュース — 23	
1.3.5 ドイツ語のソフトや書籍 — 25	
1.4 スペイン語の世界	26
1.4.1 スペイン語の表示 — 27 1.4.2 スペイン語の Web ページ — 27	
1.4.3 スペイン語の新聞と雑誌 — 28 1.4.4 スペイン語の学習 — 31	
1.4.5 スペインのほかの言語 — 32	
1.5 ポルトガル語の世界	33
1.5.1 ポルトガル語の表示 — 34 1.5.2 ポルトガルの Web ページ — 35	
1.5.3 ブラジルの Web ページ — 36	
1.5.4 モザンビーク、マカオ、その他の Web ページ — 38	
1.6 北欧語の世界	39
1.6.1 アイスランド語の Web ページ — 40 1.6.2 ノルウェー語の Web ページ — 41	
1.6.3 スウェーデン語の Web ページ — 42 1.6.4 デンマーク語の Web ページ — 43	
1.6.5 フィンランド語の Web ページ — 43 1.6.6 サンタクロースはどこに — 45	
1.6.7 ケルト系諸語の Web ページ — 45	

1.7	ロシア語の世界	47
1.7.1	ロシア語の表示	47
1.7.2	ロシア語の入力方法	50
1.7.3	ロシアのインターネット事情	51
1.8	東欧諸語の世界	54
1.8.1	ポーランド語および東欧語の表示	54
1.8.2	ポーランド語の Web ページ	56
1.8.3	チェコ語の Web ページ	56
1.8.4	スロバキア語の Web ページ	58
1.8.5	ソルブ語の Web ページ	58
1.8.6	ウクライナ語の Web ページ	59
1.8.7	ベラルーシ語の Web ページ	60
1.8.8	ブルガリア語の Web ページ	60
1.8.9	マケドニア語の Web ページ	61
1.8.10	セルビア・クロアチア語の Web ページ	62
1.8.11	スロベニア語の Web ページ	63
1.8.12	ルーマニア語とモルドバ語の Web ページ	63
1.8.13	アルバニア語の Web ページ	64
1.8.14	リトアニア語の Web ページ	65
1.8.15	ラトビア語の Web ページ	66
1.8.16	エストニア語の Web ページ	67
1.8.17	ハンガリー語の Web ページ	68
1.9	南欧およびコーカサス諸語の世界	69
1.9.1	イタリア語の Web ページ	69
1.9.2	マルタ語の Web ページ	70
1.9.3	ギリシャ語の Web ページ	71
1.9.4	キプロスの Web ページ	72
1.9.5	トルコの Web ページ	73
1.9.6	アルメニア語の Web ページ	74
1.9.7	グルジア語の Web ページ	74
1.10	オランダ語およびフラマン語の世界	75
1.10.1	オランダ語の Web ページ	75
1.10.2	フラマン語の Web ページ	75
	コラム 2 Streaming ラジオ放送	76
2 章	アジア、中近東、アフリカの Web ページ	83
2.1	中国語の世界	83
2.1.1	話し言葉の中国語と書き言葉の中国語	83
2.1.2	日本語 Windows で中国語を表示する方法	84
2.1.3	日本語 Macintosh で中国語を表示する方法	86
2.1.4	中国語の Web ページ	88
2.2	韓国語の世界	91
2.2.1	Windows でのハングル表示	91
2.2.2	Macintosh でのハングル表示	93
2.2.3	韓国語の新聞と雑誌	94
2.2.4	検索システム	95
2.2.5	韓国文化に触れる Web ページ	95
2.3	インド諸語の世界	97
2.3.1	タミル語の Web ページ	98
2.3.2	ヒンディー語の Web ページ	99
2.3.3	サンスクリット語の Web ページ	100
2.3.4	ネパール語の Web ページ	101
2.3.5	マラティ語の Web ページ	101
2.3.6	カナダ語の Web ページ	101
2.3.7	ベンガル語の Web ページ	102
2.3.8	ウルドゥー語の Web ページ	102
2.3.9	テルグ語の Web ページ	103
2.3.10	マラヤラム語の Web ページ	104
2.3.11	シンハラ語の Web ページ	104
2.3.12	モルジブ語の Web ページ	104

2.4	東南アジア系言語の世界	105
2.4.1	ミャンマーの Web ページ	105
2.4.2	カンボジアの Web ページ	106
2.4.3	タイの Web ページ	106
2.4.4	インドネシアの Web ページ	107
2.4.5	ブルネイの Web ページ	108
2.4.6	シンガポールの Web ページ	109
2.4.7	マレーシアの Web ページ	109
2.4.8	ラオスの Web ページ	110
2.4.9	ベトナムの Web ページ	111
2.4.10	フィリピンの Web ページ	111
2.5	アラブの世界	112
2.5.1	アラビア文字とインターネット環境	112
2.5.2	アラビア語の Web ページ	114
2.5.3	ペルシャ語の Web ページ	117
2.5.4	クルド語の Web ページ	118
2.6	ヘブライ語の世界	119
2.6.1	ヘブライ語のインターネット環境	119
2.6.2	ヘブライ語の Web ページ	120
2.6.3	イーディッシュ語の Web ページ	122
2.6.4	ラディーノ語の Web ページ	123
2.7	アフリカ諸語の世界	124
2.7.1	アフリカの言語事情	124
2.7.2	アフリカのリンク事情	125
2.7.3	アムハラ語の Web ページ	126
2.7.4	バンツール系諸語の Web ページ	127
2.7.5	アフリカーンス語の Web ページ	128
コラム 3	インターネットの新エスプレント運動	129
2 部	マルチリンガル Web の仕組み	131
3 章	コンピュータ上での各国語処理	133
3.1	インターネット上の世界のコンピュータとネットワーク	133
3.2	DOS と OS/2 Warp	134
3.3	ISO コード、各国の標準コードと慣用コード	140
3.4	Windows 3.1 と Windows 95	144
コラム 4	インターネットと半角カタカナ文字	145
3.5	Windows NT	149
3.6	Mac OS	150
3.7	UNIX	154
3.8	世界の文字コードの標準化と Unicode	155
4 章	Web ブラウザの多国語対応	161
4.1	Netscape Navigator	162

4.2	Internet Explorer	165
4.2.1	Internet Explorer 3.0	165
4.2.2	多言語サポートとInternational Extension	166
4.3	Tango (Alis Technologies 社)	167
4.4	Accent (Accent Software International 社)	168
4.4.1	Internet with an Accent	168
4.4.2	Navigate with an Accent	169
4.5	Tiber (Video Online 社)	170
4.6	NCSA Mosaic	171
4.6.1	PMosaic	173
4.7	Macintosh 用ブラウザ、Cyberdog	174
4.8	アドオンフォントおよびアドオンプログラム	174
4.8.1	西ヨーロッパ	174
4.8.2	中央ヨーロッパ	175
4.8.3	バルト諸語	175
4.8.4	キリル文字 (KOI8 用)	176
4.8.5	ギリシャ文字	176
4.8.6	トルコ語	176
4.8.7	ヘブライ語	177
4.8.8	マルタ語	178
4.8.9	アラビア語	178
4.8.10	ベルシャ語	179
4.8.11	アルメニア語	180
4.8.12	グルジア語	180
4.8.13	ヒンディー語	181
4.8.14	タミル語	181
4.8.15	カンナダ語	182
4.8.16	マラティ語	182
4.8.17	ネパール語	182
4.8.18	ビルマ (ミャンマー) 語	182
4.8.19	ラオス語	183
4.8.20	タイ語	183
4.8.21	ベトナム語	183
4.8.22	中国語・日本語・韓国語	184
●NJWIN (Ningbo Data Systems 社)		184
●Asian Suite 97 (UnionWay 社)		185
●AsiaSurf (DynaLab 社)		185
●AsianViewer (TwinBridge Software 社)		185
●Chinese/Japanese/Korean Language Kit (Apple Computer 社)		186
4.8.23	その他のフォント	186
コラム 5	Java と Acrobat	187
5 章	Web ページのアドレスと検索システム	189
5.1	Web ページのアドレス	189
5.2	Web の検索システム	190
5.3	各国語による検索	191
5.3.1	検索のための入力	196
6 章	各国語 OS と外国語の入力・出力	199
6.1	外国語の入力	199

6.2	外国語の出力	204						
6.2.1	ファイルとして出力	204						
6.2.2	海外 OS を利用	206						
6.2.3	画像ファイルとして利用	207						
6.2.4	TrueType フォントと PostScript フォント	207						
コラム 6	日本語 Windows と英語 Windows	209						
コラム 7	海外版 Windows 95 パソコンの構築方法	211						
コラム 8	海外 OS で日本語を表示するには	213						
3 部	マルチリンガル Web ページの作成	215						
7 章	マルチリンガル Web ページの作成準備	217						
7.1	マルチリンガル Web システムの基本的な設計	217						
7.2	マルチリンガル Web ページ作成上の考慮点	220						
7.2.1	Web ページを世界に公開する際の考慮点	220						
●国または言語によって違う表記	220	●会社名	221	●電話番号	221			
●郵便番号	221	●日付と時刻	222	●度量衡	222	●略語	223	
●数字	223	●貨幣	223	●平等性	223			
7.3	Web ページの作成に使われる HTML	224						
コラム 9	HTML の定義をめぐる競争と協調	229						
7.4	FTP (File Transfer Protocol)	230						
7.5	画像と音声	231						
7.6	コンテンツ、素材、Web ページ作成ソフト	233						
7.6.1	テキストエディタ	233	7.6.2	HTML エディタ	234			
7.6.3	画像処理ソフト	234	7.6.4	音声編集ソフト	235			
7.6.5	アウトラインプロセッサ	235	7.6.6	翻訳辞書と翻訳ソフト	236			
●翻訳辞書	236	●翻訳ソフト	237					
8 章	各国語版 Web ページの作成	241						
8.1	英語版 Web ページの作成	241						
8.1.1	素材データの作成	241	8.1.2	HTML 文書の作成	243			
8.1.3	英語版 Web ページの注意点	245	●英語で使う文字	245	●敬称	246	●イギリス英語	246
8.2	スペイン語版 Web ページの作成	247						
8.2.1	素材データの作成	247	8.2.2	HTML 文書の作成	247			
8.2.3	スペイン語版 Web ページの注意点	249	●スペイン語で使う文字	249	●スペイン、中南米、その他の国のスペイン語	250		
●固有名詞	250	●文章のスタイル	250	●住所、電話番号	251			
●通貨	251	●度量衡	251	●日付と時刻	251			

8.3	中国語版 Web ページの作成	252
8.3.1	Windows 環境での中国語 Web ページの作成	252
	●素材データの作成	252
	●HTML 文書の作成	254
8.3.2	Macintosh 環境での中国語 Web ページの作成	254
	●素材データの作成	254
	●HTML 文書の作成	256
8.3.3	中国語版 Web ページの注意点	258
	●簡体字と繁体字	258
	●外来語と人名	260
8.4	アラビア語版 Web ページの作成	260
8.4.1	Multilingual Publisher による Web ページの作成	260
8.4.2	アラビア語版 Web ページの表示	264
8.4.3	HTML 文書の作成	266
8.4.4	アラビア語版 Web ページの注意点	271
	●HTML エディタの選択	271
	●アラビア語のフォント	272
8.5	ロシア語版 Web ページの作成	272
8.5.1	Windows 環境でのロシア語 Web ページの作成	272
8.5.2	Macintosh 環境でのロシア語 (KOI8 コード) Web ページの作成	274
8.5.3	HTML 文書の作成	275
8.5.4	ロシア語版 Web ページの注意点	277
	●使用コードの明記	277
	●数字と日付	277
8.6	HTML ファイルを Web サーバにアップロードする	278
8.6.1	Cute FTP の使用法	278
8.6.2	Fetch の使用法	279
8.7	6 か国語を 1 つの Web ページに載せる	280
8.7.1	Unicode を使う方法	280
8.7.2	<META> タグを使う方法	282
8.8	マルチリンガル Web ページを広く告知する	283
8.9	最後に	285
付録 A	ブラウザと OS から見た対応言語表	288
付録 B	コード表の入手先	295
付録 C	中国語・韓国語用ソフトの入手先	297
付録 D	参考資料	299
付録 E	付属 CD-ROM の内容と使い方	300
索引		305

1部

マルチリンガルWebの世界

Part 1: Viewing the Multilingual Web Pages

1部では、世界の国別に、各国語によるWebを体験してみましょう。

どのような言葉がどこで使われているか、どのような文字を使うのか、

そして、各国語のWebページをNetscape NavigatorやInternet Explorerなどのブラウザでどのようにして見るのかを解説します。

次に、主要新聞、雑誌などを含む代表的な各国語のWebページやトピックも見ながら、その言葉の世界についての理解を深めます。

また、各国語のWebページの検索用ディレクトリや検索ロボットを含めた検索システムについても紹介します。

さらに、その言葉の本国からの発展の経緯や、派生語の違いについても述べます。

それでは、世界の各国語でWebページのネットサーフィンをお楽しみください。

1 章

欧米のWebページ

1.1 英語の世界

ほとんどの日本人にとっては、外国語のWebページといえば英語表記がおなじみでしょう。インターネットがもともとアメリカで発達したために、英語で記述されたWebページが圧倒的に多く、また私たちが従事する仕事や研究に関連する情報の大半がアメリカから入ってくるので、どうしても英語のWebページを覗く機会が多いともいえます。

ところが英語といっても地球上での使用範囲は非常に広く、世界中にはいろいろな英語が存在します。イギリスの正調英語、今や世界の正調英語になったアメリカ英語、そのほかオーストラリア、インドなどイギリスの旧植民地で使われている英語などが、それぞれの特徴をもっています。ここでは、Webページを通して世界の英語を見てみましょう。

1.1.1 イギリス

まず英語の発祥の地、イギリスの英語を見てみましょう。これにはまず由緒ある新聞The Times (<http://www.the-times.co.uk/>) を見るのがよいでしょう。1785年

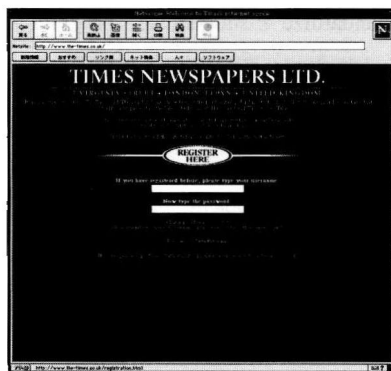


図 1-1 The Times

創刊の新聞で、イギリスに住んだことがある人なら経験した、日曜日にあの分厚い The Sunday Times を買って読む楽しみも、ここの Web ページを利用すれば日本にいながらにしてみることが出来ます。

英語の歴史を学ぶと、この言語がいかにさまざまな言語の要素を取り入れて進化してきたかがわかります。イギリスには紀元前 5 ～ 6 世紀頃から同じインド・ヨーロッパ語族には属するものの異なる言語を話すケルト族が住んでいました。そこに紀元後 5 世紀、今のデンマーク、ドイツ北方からユート族、サクソン族、アングル族が侵入し、彼らの話した西ゲルマン語が古英語 (Old English) の基礎になりました。古英語については、古英語のリンク集である以下の Web ページを参照してください。

http://www.georgetown.edu/cball/oe/old_english.html

8 世紀のヨーロッパ北方に住むバイキングによるイギリス侵略や、キリスト教の布教によって、古英語は北方ゲルマン語とラテン語の影響も強く受けています。中期英語 (Middle English) の時期は、フランスのバイキングによる「ノルマン人征服」によって、フランス語の影響を多分に受け、チョーサー (Geoffrey Chaucer) が『カンタベリー物語』を著したのもこの時期でした。16 世紀に始まるといわれる近代英語 (Modern English) は、シェークスピア (William Shakespeare) の著作や植民地化政策によって、世界に拡大するとともに世界各地の言葉を吸収しました。

近代英語の確立には、1755 年に完成したジョンソン博士 (Samuel Johnson) の辞書『A Dictionary of the English Language』が大きく貢献したといわれています。現在のイギリス英語のスペルや文法が、この辞書やイギリスの学校教育制度に影響を受けているからです。イギリス式スペルは、日本で一般的なアメリカ式スペルとは違い、例えば labor を labour、check を cheque、standardize を standardise、program を programme などと表記します。イギリス英語の発音も歴史的な背景から、各地方によりかなり違うのですが、容認発音 (Received Pronunciation) または「英国放送協会英語」(BBC English) が標準と考えられています。

イギリスの Web ページを探すには、1996 年に開始されたイギリス版の検索用ディレクトリの Yahoo! UK & Ireland (<http://www.yahoo.co.uk/>) を参考にしてください。英連邦 (United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland) とアイルランドにある Web ページを探すことができます。

また、前述の The Times のサイトに加えて、次のような新聞、放送局のサイトが参考になるでしょう。

The Guardian

<http://www.guardian.co.uk/>

The Scotsman

<http://www.scotsman.com/>

The Irish Times

<http://www.irish-times.ie/>

BBC (British Broadcasting Corporation)

<http://www.bbc.co.uk/>

1.1.2 アメリカとカナダ

典型的なアメリカ英語のサイトはアメリカ東部の有名紙 The New York Times (<http://www.nytimes.com/>) でしょう。有料のサービスとなっています。またこのサイトでは、Adobe Systems 社の Acrobat 技術を使ったより見やすい紙面を楽しむこともできます。

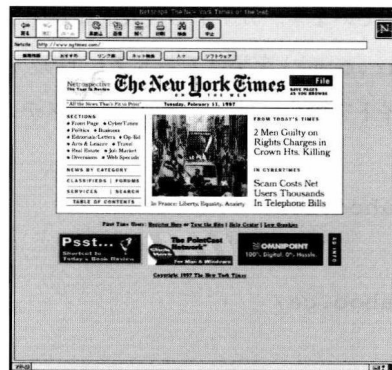


図 1-2 The New York Times

そのほかのアメリカの新聞には以下のものがあります。

地方紙

The Boston Globe

<http://www.boston.com/>